

「性教育」から「人間教育」へ  
～スマホ時代における「人間教育」としての性教育～

F グループ

第5期ジュニア・アカデメィア  
主催 日本アカデメィア

## F グループ研究報告書

テーマ

### 「性教育」から「人間教育」へ ～スマホ時代における「人間教育」としての性教育～

#### 1. 解決すべき課題

現状の性教育・性の意識を取り巻く課題は、スマホ・ネットの普及による誤った性の情報＝アングラ情報(※)の氾濫と、性教育で与えられる公式情報が不十分なものである(相手を思いやり良好な関係性と築くという観点と、自分の行動に責任を持つという観点が欠けた教育になっている) ことにより、人々がアングラ情報などの誤った情報を信じたり、歪んだ性の意識を持ち、それにより相手を傷つけたり、自分が傷ついたりすることである。

※以後、ネットを通し手に入る誤った情報のことを「アングラ情報(アンダーグラウンド情報)」と称する。これは保健的に誤りがあり、良好な人間関係構築という意味でも正しくない、娯楽としての性情報のことである。具体的には SNS の性的で不確実な書き込み、アダルトサイト、セックス指南サイトに書かれていることなどを指す。

スマホ時代の今、私たちは幼少期からアングラ情報をいくらかでも手に入れることができる。以前は性の情報に辿り着く手段も、辿り着ける情報量も限られており、例えば児童期なら探求心のある子でも河川敷の成人誌を漁る程度で、関心の無い子は「寝た子」で居続けることができた。今は子守りを任されたタブレット端末や、塾帰りの連絡に持たせたスマホが、過激な性的広告を表示し、膨大なアングラ情報を提供できる。これにより従来よりも「普通の子、普通の人」がアングラ情報や、偏った性の意識を持ちやすくなっていると考えられ、スマホやタブレットが生活に欠かせなくなった今、この傾向は拡大し続けると思われる。

学校の性教育で、「精子と卵子が結びついて受精卵となる」としか教えられなかったら、子供達は精子と卵子がどうしたら結びつくのかの知識を、どこで補完するだろうか。性教育で量・質共に大したことを教えられていないから、膨大な空白を玉石混合の非公式情報から探し埋めることになる。また膨大なアングラ情報から正しい情報を取捨選択する判断力も育たない。性教育で、十分な量の正しい情報を与える改革がスマホ時代の今こそ必要

である。

性教育で大したことを教えられていないのはなぜだろうか。中学・高校で大したことを教えていないのは、文部科学省によれば「子どもたちは社会的責任を十分にはとれない存在であり、また、性感染症等を防ぐという観点からも、子どもたちの性行為については適切ではない」ため、中高生を性行為を行う主体として見なしていないからである。そして発展的な内容については、性行為をする一部の生徒に対し特別に個別指導をすればよいとしている。しかし、踏み込んだ性教育は、非行をする一部のティーンだけに必要なオプションではない。中高で性行為をするかしないかに関わらず、性犯罪から自分を守るため、自分が性犯罪者にならないため、スマホで手に入れた誤った情報に翻弄されて価値観が狂わないため、パートナーとお互いを尊重し合った関係性を構築するため、大人になってからの時のためにも、もっと踏み込んだ正しい情報が、どんな子供にも必要なのである。

従来の性教育では、「寝た子を起こさない」という前提から当たり障りない内容だけを教え、「性を通し相手との双方向的コミュニケーション関係を構築し、自分の行動に責任を持つ」という性の当事者意識は育てられてこなかった。そうした意識も育まず、正しい知識も持たずに暮らしていることで、人々は性を通し相手を傷つけたり、自分が傷ついたりしている。性感染症、不本意な妊娠などに限らず、冷え切った夫婦関係、セックスレス、浮気、離婚、DV、児童虐待、性犯罪被害に遭うこと、性犯罪加害者となること、セクハラをしてしまうこと、パートナーと思うように分かり合えないこと、不妊といった問題は、性教育の不備に行きつく問題であると言える。

つまり、性教育は大人の問題でもある。大人も、相手を思いやった関係性を構築すること、自分の行動に責任を持つことという観点に踏み込んだ性教育を受けて、自分は性を通し、人を傷つけたり傷つけられたりするという当事者意識を育み、性に関する意識を刷新する必要がある。大人が子供を育てるのだから、子供達に家庭内不和・DV・児童虐待等の無い幸福な家庭を用意し、安定した大人に育つ人生を与え、好循環を生み出すためにも、大人達の再教育は重要である。また、学校教育と併せて家庭での性教育も子供に重大な影響を与えるという観点からも、大人達が正しい知識を持ち、健全な意識を持っていることは重要である。

## 2. 問題意識

まず、教育体制の問題がある。既存の性教育では、「十分な知識」が与えられていない。例えば、生殖のテーマで教科書に載っているのはあくまで生物学的な内容だけであり、その過程の話などはほぼ記載がない。加えて、これからはスマホにより沢山の情報が溢れていくのに、性教育の公式な教育現場においても、現実味が薄く、ぬるい内容になっている。

次に、人々の意識の問題がある。性の関係において「思いやりをもつこと」「責任をもつこと」「間違っただ情報を切り捨てること」は確かに問題意識として教科書に表記されているものの、その問題にどう向き合っていくのかの取り組み・意識は不十分である。人々に思いやりと責任のある関係構築をするという意識が出来ていないのが問題である。

では実際に中学校の保健体育の教科書において、これがどう表記されているかの例を挙げる(教科書で性に対して触れられているのは中学校で約5頁、高校で約10頁であった)。

#### ① 性に対して「思いやりをもつこと」「責任をもつこと」に触れるが、それに対して具体的な対応が書かれていない例

・「それぞれの性について正しく理解し、自分と相手の将来を考えて、相手の気持ちを思いやり、たがいに尊重し、高め合える対等な人間関係をつくるのが大切です。」 大修館書店 『保健体育』

・「男性はたくましい、大胆、決断力があるべきとか、女性はかわいい、従順、献身的であるべきなどの固定概念が社会ではみられます。それに合わせようとして、相手を傷つけたり、自分が傷ついたりする場合があります。」 大修館書店 『保健体育』

・「性衝動に任せて行動すると、相手の気持ちを傷つけたり、望まない妊娠を招いたりすることがあります。また、エイズや性感染症に感染することもあります。一時的な感情に流されず、自分の気持ちや行動をコントロールし、お互いの心や体を大切にすることが大切です。(中略)異性の心や体の違いを理解し、お互いを尊重し合う人間関係をつくっていくことが大切です。」 東京書籍 『新編新しい保健体育』

・「おたがいの性に対する考え方や行動のちがいを理解し、一人ひとりが自分らしさを大切に、おたがいのよさを認め合い、高め合える人間関係を築いていくことがとても大切です。」 大日本図書 『新版中学校保健体育』

## ②性の「間違っただ情報を切り捨てること」について触れているものの、

### それに対して具体的な対応がされていない例

- ・「性情報には、正しいものもあれば、事実がゆがめられていたり、誤っていたりするものもあります。」大修館書店 『保健体育』
- ・「雑誌、ビデオ、インターネットなどの情報の中には、人がもつ性への興味・関心を利用して過激な表現でお金もうけをしようとしたり、自分の性的な欲求を満たすために利用したりするものもあります。そのために性に関わる犯罪に巻き込まれたりする場合があります。」大修館書店 『保健体育』
- ・「性について適切に対処するためには、身のまわりにある性情報が正しいかどうかを判断し、(中略)、新しい命を生み出せる体に成長した人間には、その責任がさらに強く求められるからです。」大修館書店 『保健体育』
- ・「性情報の中には、間違っただ情報や、性衝動をあおろうと意図してつくられた情報もあります。私たちは、このような情報が本当に必要なのか、信頼できる情報なのかを判断しなければなりません。そしてその行動によって起こる結果を予測し、責任ある行動を選択することが大切です。」

東京書籍『新編新しい保健体育』

- ・「これ(性情報)にはいたずらに性への興味をあおるような、不正確でゆがめられたものが少なくありません。こうした情報に振り回されて、犯罪の被害を受けたりすることのないようによく考えて、中学生にふさわしい責任ある行動をとるようにしましょう」大日本図書『新版中学校保健体育』

つまり、性について「思いやりをもつこと」「責任をもつこと」「間違っただ情報を切り捨てること」は確かに問題意識としては存在するものの、その問題にどう向き合っていくのか、具体的な方策に触れていない。昨今は小さい子どももスマホを持つような世の中であるのに対し、情報のリテラシー・責任・おもいやりについて具体的な取り組み方が示されないから、大衆はアングラ情報に踊らされ、何がセクハラなのかが分からない。加えて、まだ経済力が無いにも関わらず、結果として無責任な性行為を行なってしまう人もいるのではないだろうか。また、今は SNS を通じて様々な人間と知り合うことが出来る。そのため、性について間違っただ認識を持っていると様々なことに巻き込まれてしまう。近年では女子高校生がいいバイトがあるとされていてポルノに巻き込まれてしまうケースも出てきて

いる。性を取り巻く状況が変化し、危険が増している今こそ、性に関する正しい知識や認識が大切になってくると考えられる。

### 3. 現在みられる課題解決策とその問題点

大きく分けて3つの形態の解決策が行われている。

#### 1. 外部の講師による性教育の実施

学校では扱えきれない性の指導を、医師やNPO等の外部に依頼し実施する。実際の教育現場でも東京都教育委員会の調査では「性に関する授業は外部講師を活用することが効果的である」という項目に9割近くが肯定的な意見を示している。

問題点:

I) あまりにも踏み込みすぎた性教育は依然として実施しにくい。

→ 踏み込みすぎた性教育は教育委員会や議会からバッシングの対象になってしまうことがある(例：都立七生養護学校)。

II) 外部講師による性教育を実施している学校が少ない。

→ 多くの教育現場で外部講師の必要性が叫ばれているものの、実施した場合には親からの承認をとるなど、煩雑な対応が必要となる。

#### 2. NPO等による情報発信

多くのNPO等の組織がインターネットなどを通じて正しい性に関する情報発信を行っている。子供だけを対象とせず、大人などの様々な主体へ情報を発信している例もある。

実際の例:

I) ロリエ → 「おとなになるということ」において初経教育への取り組みを行っており、子ども、親、教育関係者それぞれを対象とした情報や教材を提供している。

II) NPO 法人ピルコン → 「正しい性の知識と判断力を育む支援により、これからの世代が自分らしく生き、豊かな人間関係を築ける社会の実現を目指す非営利団体」

であり、性教育講演や人材育成、情報発信等を行っている。

問題点: 主にインターネットを通じての情報発信となるため、不正確な性情報との区別が難しい。

### 3. 外部の講座による性教育

性に関する情報発信を行っている団体が自主的に行う講座や自治体が医師や保健師等に依頼し実施される講座がある。学校教育とは違う観点からの性教育が実施されている。

実際の例:日本アマナ性共育協会》

→「性への真の理解を中心につなげた幸せな女性と家族を増やしていく」という観点から実践型性共育を行っている。

問題点:参加者の自主的な参加が求められているため包括的ではない。

## 4. グループとして考える課題解決策と、課題解決までの道筋

### 4.1 考えうる解決策の比較検討

解決策として **1. 授業内容の向上** **2. 法律の変更** **3. 性教育のe-ラーニング化** の3つが挙げられる。ひとつずつ実現可能性と共に検討したい。

**1.の授業内容の向上**は、現状不可能であると考えられる。性教育が今まで変化してこなかった原因の1つは世論と行政が壁となっていたからである。例えば七生養護学校事件がある。1997年七生養護学校で性交があったことを受け、教員と保護者が協議を重ね知的障害児に対する独自の性教育プログラムを開発し、男性器と女性器の部位や名称を織り込んだ歌や人形を使った授業を行った。しかし、都議会や教育委員会では「常識はずれである」という批判が生じ、教員は懲戒処分などを受けた。2018年にも、人権教育として世界水準の性教育の講義を行った足立区の学校に対し、都の教育委員会から「発達段階を無視」した「不適切な性教育」だと文書で通達されている。このような行政の対応は、「寝た子を起

こすな」「性の話は恥ずかしい」といった世論から形成されたものであろう。すなわち、「現在の学習指導要領に沿った性教育は世界水準なく問題である」という認識は世論に見られない。この状況で「性教育に関する学習指導要領を変革すべき」という主張はおおよそ通るとは思えない。また、現状を学校現場から変革していくのは、学校教員の負担を考えても現実的ではない。但し、最終的には学校現場で世界水準の包括的性教育が提供されることが望ましい。

**2.の法制度の改正**も、現状、「性教育が世界水準に達しておらず問題である」という世論が醸成されていない状態で実現するのは困難である。

以上の2点は理想であり、まだ国や行政が動くほどの「課題」として性教育が認められていないため、実現可能性が低い。そこで①草の根での世論醸成とデータ収集 ②性教育の課題化 ③行政の変革 の3段階に分けて解決策を提言したい。我々は、国に性教育の刷新に取り組む必要があると認知させることをまず重視し、①②の段階を設けた上で、国が動くとなった後のことを③とした。①～③の包括的性教育拡大の3段階に共通するのは、上に述べた解決策**3.の、性教育のe-ラーニング化**である。

#### **4.2 グループの解決策①草の根での世論形成とデータ収集、解決すべき課題**

まず、「日本の性教育は世界水準に及ばず問題である」という世論を醸成するため、NPO, NGO, 企業などすでに包括的性教育にまつわる団体を1つに統合した「組み木連合」を結成する。

この連合を結成することの目的は、小さな影響力しか持たない個別の団体をまとめ上げ、連合としてまとまった影響力を持つことである。また、個別の団体の関心分野に偏りがあるのを均す目的もある。ユネスコによれば、性教育の重要なキーコンセプトとしては1.関係性 2.性的価値観と権利や文化 3.性別への理解 4.暴力と暴力からの安全の確保 5.健康と幸福 6.人体と発達 7.セクシュアリティと性的行動 8.性とリプロダクティブヘルスがある。現状は生殖教育や女性の権利問題を取り扱う団体が多く、暴力にまつわる団体が目立たない



ように、各々の団体の主張には偏りがあるため、連合の形を取ることで包括的な内容を扱いたい。

### 【ネーミングの「組み木」について】

組み木とは日本の建築・木工細工の技術であり、互いに噛み合うように木片を加工し結び合わせることで、お互いに相手を思いやった関係性、人間関係の構築を表している。性教育という単語自体が敬遠されている可能性があるため、性教育というネーミングをより包括的なイメージのあるものに変更し、親しみやすくするため、この名称を用いた。

### 【活動内容について】

加入する各団体が、UNESCO の“International Technical Guidance on Sexuality Education”のガイドラインに準じたコンテンツ開発を行い、e-Learning 教材化する。それを保護者、子ども、学校に向け配信する。

UNESCO の内容を日本にローカライズするにあたり、日本には性的話をおおっぴらにできない、教員も「生殖について取り扱いたくない」と感じる「恥の文化」があることに配慮し、指導者や共に学ぶ仲間と直接対面しなくて済む e-Learning という形態にした。実際、沖縄県で行われた学校性教育の調査によれば、各教室では性教育が教員の采配(ex. 性教育をするのは恥ずかしいので、保健体育ではなく体育実技に重きをおく)によって不均一に実施されており、学校やクラスによって子供が得る性に関する知識の内容や理解の程度には大きな差異が生じやすい。このような事態をふまえて、恥ずかしがってまともに取り組めない・教員によって指導内容がばらつく事態を避け、落ち着いて取り組ませられる e-Learning が最適であると考えた。



図 1:組み木連合の活動

コンテンツの内容について説明する。①「学習」の **e-Learning** ②「実践」のテーブルトーク **RPG (TRPG)** の二段階のコンテンツを設ける。

### ①「学習」の **e-Learning** について

ユネスコの **International Technical Guidance on Sexuality Education** のガイドラインに準じ、内容を定める。生殖、性的行動、リスク、病気の予防に関するコンテンツに加えて、相互の尊敬と平等に基づく愛ある関係性など、肯定的な側面も含めて性と向き合う。またスマホの時代に対応するため、ネットと SNS の危険性を把握し、娯楽用性的メディアの誇張・不確実性を踏まえ、情報収集源・情報発信手段として安全に使う方法も学習する。これは 性の知識の取得だけでなく、人々が尊敬、受容、寛容、共感をもって他人を扱い、他の人に影響を与えうる方法に対して責任を負う能力を得ることを目的としている。

### ②「実践」のテーブルトーク **RPG(TRPG)** について

TPRG とは、自分に割り振られた役を全うしながら、他のプレイヤーと会話を楽しみ会

話次第でストーリーを進めるゲームである。もともとは盤とサイコロのアナログゲームだが、今はオンラインですることができる。学習した内容の定着をはかるため、アウトプットの間として章末に TRPG を設ける。これは、相手を思いやるという行為に慣れ親しんでもらうためである。性は相手を思いやることが本質なので、知識を読み流す・聞き流すのではなく、「相手を思いやり自分の行動を考える・相手の反応を見て再考する」という行動を習得することが大事である。TRPG を通し、学習した情報に基づいた意思決定をし、効果的にコミュニケーションと交渉を行い、自己主張と思いやる方法を学ぶ。ゲームとして面白く、性について主体的に考えながら学べるような内容の TRPG を用意する。

### 【組み木連合の加入基準について】

加入する団体は、(a)性教育に関連する活動をしている個別の NPO・NGO・企業、(b)ベネッセなどの民間教育機関、(c)TRPG を作っている会社、(d)教科書会社、(e)グーグルやツイッター、ラインなどのプラットフォームのいずれかに該当し、ユネスコの性教育基準に同意する団体である。

(b)については、コンテンツを組み木連合という名も無い団体が掲載してもアングラ情報に埋もれてしまうため、教育コンテンツであることを保証する信頼性のある場に掲載する必要があることから、必要とされるセクターである。作成したコンテンツは、e-Learning コンテンツをすでに配信している民間教育会社(ベネッセ、リクルート、デジタルナレッジ等)に掲載をする。

(e)については、アングラ情報に触れる前に正しい組み木の情報に辿り着いてもらうために参加が必要とされるセクターである。アングラ情報の表示を遮断したり、組み木サイトを優先表示させたりする。

(b)～(d)はもともと性に関する理念などを前面に押し出した活動をしているわけではないが、後述するように性や人間関係に関して真っ当な価値観を有さない企業が淘汰されるような社会となっていくことを前提とすると、望ましくない価値観を看過し、相応しくないコンテンツを野放しにするような企業ではないとアピールできることに参加のインセンティブ

があると考える。

【コンテンツ公開以降の、意図する知識・意識の普及スパンについて】

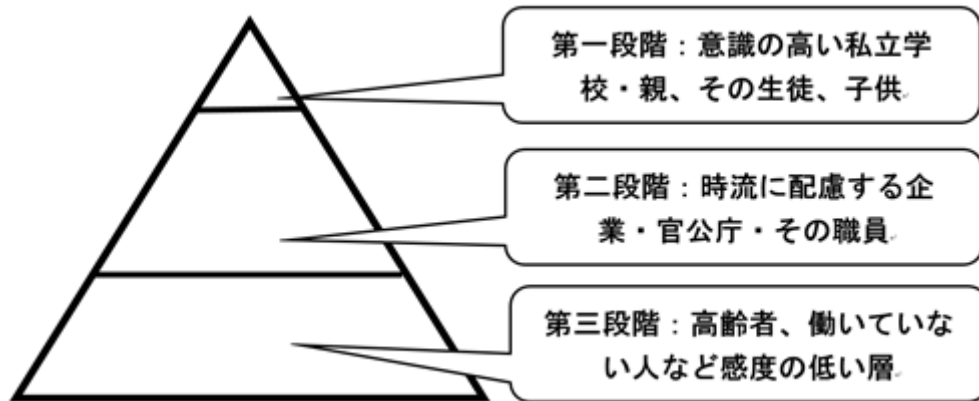


図 2:組み木コンテンツの普及イメージ

第一段階として、このコンテンツを性教育に用いる意識の高い私立学校、意識の高い親、その生徒・子供に、組み木コンテンツによる十分な知識・新しい性の意識が普及する。東京都の教育委員会が 2018 年 9 月に実施した性教育（中学校）の実施状況調査結果によると、教員の約 9 割は性教育を外部委託したいと考えている。教育内容に自由度の高い私立の学校や通信制高校が、自ら内容を考案する手間を省き、世界基準の性教育を行うことで自校をブランド化するために、組み木コンテンツを取り入れることが考えられる。また、意識の高い親に取り入れられると考えられる。家庭における性教育の現状と課題(高橋 1996)によれば、家庭でなされるべきであると考えられている性教育と実際に保護者が行なった性教育には大きな乖離がある。これは、保護者が性教育にどう取り組んだら良いか不安を持っているからだと考えられ、保護者からの利用は一定数見込める。この段階は先進的な人達の間での普及で、公開から数年と想定している。

第二段階として、大企業や官公庁の経営計画・運営計画への取り入れと職員への普及がある。これは SDGs の近年の普及をイメージしている。SDGs の観念は、新興国の隆盛によりどの企業・行政も発展途上国・新興国を無視したビジネスができなくなってきたことから、ビジネスのために SDGs を配慮せざるを得なくなり、配慮しない企業は淘汰される時

流となってきたことで普及した。現代の日本は、少子高齢化により女性や高齢者の労働力を活用しないといけなくなっていくほか、他の OECD 諸国と比べ仕事をする上で性の非対称が大きく、男性に集中する過酷な負担・女性の軽視などの劣悪な労働・生活環境となっている。生産年齢人口の男性だけに重圧を押し付けたまま、女性を社会の構成員として軽視したままの社会構造では日本は立ち行かなくなっていくはずである。これを背景に、お互いを思いやった関係性に性教育という人間の根源的なところから取り組む「組み木連合」の観念への共感、配慮がビジネスをしていく上で必須のものであり、配慮しないアクターは排除するという時流を育てることで、起業・官公庁・その職員の中に組み木連合の観念を普及させることができる。これは先述の組み木連合に加入する企業の加入の動機と同じである。また、「くるみマーク」のように、組み木連合の観念に配慮した活動をする企業等に認定マーク「くみきマーク」を付与し、真っ当さを表すシグナルとして普及させる。働いている年代の人々は、日々働き手として、消費者として生活しながらこの観念を次第に内面化させていくことができる。これは数年ですぐにできることではないが、10年スパンで取り組みながら、その過程で政府の動きが加速することが考えられる。この層への普及の段階で、「性教育の刷新が必要だ」という議論が一定のボリューム・影響力を持って盛り上がり、国の施策へと移るのではないかと考えられる。

第三段階として、感度の低い層を含めた全体への普及がある。意識が凝り固まっている高齢者などが最後の層になると想定される。既に組み木の教育を受けた子供たちが大人になりはじめ、家庭や社会を作っていくほか、組み木の理念を取り入れた企業・官公庁の運営、その職員などを通して社会全体に組み木連合の観念が普及する。この層に普及するより前に、「性教育の刷新が必要だ」という議論の醸成が済み、国が動く段階に移ると考えられる。そのため法制度改正など、強制力のある手段でこの層の意識を変えていけると考えられる。

### 【データの収集について】

最後に、データの収集についてである。この解決策は最終的に、「日本の性教育は世界

水準になく刷新の必要がある」という世論を醸成し、行政を動かすことを目的としている。行政が現時点で動いていないのは、実際に包括的性教育が導入されたことで「日本の」生徒の行動がどう変わるのか、実態を数値的に把握できていないからだと考えられる。そこで、この web コンテンツの拡大とともに、統計データをとりたい。例えばこの e-Learning のコンテンツを導入する学校で、導入前と導入後、性に関する正しい知識の量や意識、行動が変化したかをアンケート調査し、統計的に有用性を証明する。

### 【(補足) 発達段階に基づいた情報公開の方法】

組み木コンテンツへのアクセスは ID(年齢確認のため、マイナンバーなど既存のものを使用)を要するようにし、発達段階に基づいた情報公開ができるようにする。自分ごととして性を捉えるまでにかかる時間は人それぞれであろうが、ICT化することで、ログインすれば過去の情報に全てアクセスでき、性に関して必要な情報を必要な時に得ることができる。

## 4.2 グループの解決策②性教育の課題化

組み木連合として一元的に活動することでムーブメントを起こし、更に有効的なロビー活動をおこなうことで、社会全体に性教育・性の意識の刷新という社会課題があると認識させ、政治の場に届ける。

- ①民間・NPO が「組み木連合」として一元化し活動することで、性教育の改革を求めるムーブメントが発生する。
- ②組み木連合がロビイストを雇う。
- ③ロビイストが政治家、省庁（文科省、厚労省等）に対し性教育の改革を求める。
- ④政治のテーマに性教育の改革が上がるようになる。

社会のムーブメントだけでは実際に改革が行われるのは難しいが、ロビイストを介入させることで、確実に行政の意思決定に繋げる。

## 4.2 グループの解決策③行政の変革

社会に醸成された問題意識、ロビイストたちの活動を受け、国が動き始める。法律・条例整備の権限を持つ国が施策に乗り出すことで、強制力・実行力のある施策を行い、社会を変革することができる。

例えば以下のようなことができると思う。

- ❖ 学校教育の指導内容の変更。組み木コンテンツに準じた保健体育、道徳などが行われる。
- ❖ 「〇歳児検診」や予防接種など、親が必ず訪れる機会に、その時代の最新情報の、親として必要な性教育の履修を定める。自動車の免許更新の講習をイメージしている。
- ❖ 誤ったアングラ情報を流している民間サイトを罰する。もしくは、組み木コンテンツの広告・URL等を載せるよう義務付ける。
- ❖ 性犯罪、DV、児童虐待の厳罰化など、法制度改正を行う。自分の身勝手な行動の責任を自覚しやすくし、犯罪行為を抑制する。

国だから取れる手段を通し、最終的に我々の目的とする「正しい性の知識が十分に手に入り、誤った情報を取捨選択するリテラシーがあり、自分の行動に責任を持ち、相手を思いやった関係を築ける」という目標を達成する。これにより、性教育の不備に行きつく不和が解消される。

## 5. 課題解決策の効果・副作用・残された課題

### 【効果】

上述の取り組みにより、性教育を刷新すべきというムーブメントを作り、ムーブメントの渦中にある人々が一足先に正しい知識・新しい意識を会得できるほか、ムーブメントにより国の制度(教育内容、法制度など)が変わることでムーブメントに鈍い層にも最終的に影響を及ぼすことができる。家庭内の不和、セクハラ、相手を軽んじた言動など、性教育・人間教育の不備が根底にある人々の困難を軽減することができる。

### 【残された課題】

学校教育の刷新により子供が新しい知識・意識を得ても、周囲がそれを潰すような大人ばかりでは学校教育の効果も薄れるため、大人の再教育を確実なものとする必要がある。また、性犯罪や DV、児童虐待の厳罰化といった法制度改正は、ムチのツールであり、「相手を思いやって関係性を構築する手段としての性」という意識は醸成できないので、意識を育てる手法に更なる工夫が求められる。さらには、「性教育の課題化」のフェーズにおいて、性教育を世界基準に前進させることに反対する派閥の人々を納得させる手段、交渉材料については十分に議論できていない。

## 6. メンバー（氏名のみ記載）※リーダーに☆、サブリーダーに○を付ける

☆鳥海風人	○江連千佳
石黒桃子	堤麻里
中村日奈子	門岡春花
亀澤尚輝	中村彩香



<出典>

【p.6「教員の9割が～」】

東京都教育委員会 平成30年度第2回「性教育の手引」議事要旨

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/about/giji\\_youshi\\_02.pdf](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/about/giji_youshi_02.pdf)

【七生養護学校事件について】

岡山県立図書館 レファレンス協同データベース

[https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref\\_view&id=1000247145](https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000247145)

【NPO・外部講師・講座による情報発信】

NPO法人 ピルコン

[https://pilcon.org/about\\_us](https://pilcon.org/about_us)

花王株式会社 ロリエ

<https://www.kao.co.jp/laurier/>

JAEI 日本アマナ性共育協会

<https://smart.reservestock.jp/menu/profile/8795>

朝日新聞：性教育 親「現実見て正しい知識を」自治体が講座開催

<https://www.asahi.com/articles/ASL583WNBL58UTIL00Y.html>

学校における性教育の指導に関する調査・研究

[https://www.esnet.ed.jp/center/kenkyu/uploads/h17/h17seikyoubiku\\_seika.pdf](https://www.esnet.ed.jp/center/kenkyu/uploads/h17/h17seikyoubiku_seika.pdf)

【足立区の学校の性教育】

東京すくすく 『足立区の中学の性教育 避妊や中絶…都議が「不適切」と批判したのは妥当か?』 (2018/09/12 東京新聞朝刊)

<https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/birth/1326/>

【UNESCO】

“International technical guidance on sexuality education”

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000183281>

【組み木】

ヒダクマ ニュース・ブログ「知れば知るほど奥が深い組木に世界が大注目。その魅力を大公開！」 (2018/03/26)

<https://hidakuma.com/blog/kumiki/>

【性教育の現状】

高橋久美子 (1996) 「家庭における性教育の現状と課題 —大学生調査を通して—」

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhej1987/48/4/48\\_4\\_267/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhej1987/48/4/48_4_267/_pdf)

【TRPG】

富士見書房公式 TRPG ONLINE 「TRPGとは」

<https://fujimi-trpg-online.jp/about/trpg.html>

三池克明 (2015、佐久大学信州短期大学) 「TRPG の教育活用についての一考察」

[https://saku.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=174&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://saku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=174&item_no=1&page_id=13&block_id=17)

#### 【SDGs】

ビューロベリタスジャパン ニュースレター BUSINESS VISION

「SDGs の広がりに対して」 (2018/04/10)

<https://www.bureauveritas.jp/newsletter/180410/006/>

日本経済新聞 「世界の女性管理職比率は 27%、ILO 日本は G7 最低」 (2019/03/07)

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ042179640X00C19A3EAF000/>

大和総研 「企業が SDGs に取り組む意義」 (2019/08/27)

[https://www.dir.co.jp/report/research/capital-mkt/esg/20190827\\_020998.pdf](https://www.dir.co.jp/report/research/capital-mkt/esg/20190827_020998.pdf)

#### 【くるみんマーク】

厚生労働省 「くるみんマーク・くるみんプラチナマークについて」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba\\_kosodate/kurumin/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/kurumin/index.html)

#### 【ロビイング】

東洋経済オンライン 桑島浩彰 「日本企業には「ロビイング力」が足りない！」  
(2014/12/14)

<https://toyokeizai.net/articles/-/55352>

#### 【その他】

COURRIER Japon 中村みすず 「日本の性教育は世界からこんなに遅れている」  
(2018/04/20)

<https://courrier.jp/news/archives/119521/>

現代ビジネス 染矢明日香 「日本が性教育の“後進国”になりつつあるのをご存知ですか」  
(2018/05/02)

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/55432>

ダイヤモンドオンライン 末吉陽子 「日本の性教育は時代遅れ ユネスコは小学生に性交のリスク教育推奨」 (2018/02/12)

<https://diamond.jp/articles/-/159339>

PRESIDENT Online 高崎順子 「なぜ日本の性教育は“セックス中心”なのか」  
(2019/07/02)

<https://president.jp/articles/-/29133>

NHK ハートネット TV 「今の時代にふさわしい性教育って？」 (2018/08/28)

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/99/>

NHK ハートネット TV 「もうひとつの“性”教育プロジェクト 自分らしく生きるための性教育へ」 (2018/06/11)

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/57/>

NHK ハートネット TV 「性のリアルを女子高生が取材！ 自分たちに必要な性教育を考える」  
(2018/12/12)

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/154/>

NPO 法人ピルコン 「AMAZE<性教育動画>」

<https://pilcon.org/activities/amaze>

日本テレビ「スッキリ」 (2020/02/05 放送)

「日本の性教育は遅れている？」